

デーヴォ ガイド



2022.7.25-31

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



10:1 さて、私パウロは、キリストの柔和と寛容をもって、あなたがたにお勧めします。私は、あなたがたの間において、面と向かっているときはおとなしく、離れているあなたがたに対しては強気な者です。

10:2 しかし、私は、あなたがたのところに行くときには、私たちを肉に従って歩んでいるかのように考える人々に対して勇敢にふるまおうと思っているその確信によって、強気にふるまうことがなくて済むように願っています。

10:3 私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。

10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

10:5 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

10:6 また、あなたがたの従順が完全になるとき、あらゆる不従順を罰する用意ができています。

10:7 あなたがたは、うわべのことだけを見えます。もし自分はキリストに属する者だと確信している人がいるなら、その人は、自分がキリストに属しているように、私たちもまたキリストに属しているということを、もう一度、自分でよく考えなさい。

10:8 あなたがたを倒すためにではなく、立てるために主が私たちに授けられた権威については、たとい私が多少誇りすぎることがあっても、恥とはならないでしょう。

10:9 私は手紙であなただがたをおどしているかのように見られたくありません。

10:10 彼らは言います。「パウロの手紙は重みがあって力強いが、実際に会ったばあいの彼は弱々しく、その話しぶりは、なっていない。」

10:11 そういう人はよく承知しておきなさい。離れているときに書く手紙のことばがそうなら、いっしょにいるときの行動もそのとおりです。

霊的指導者というものは、たとえ自分の考えが正しくても、相手を威圧したり問い詰めたりして目的を達成するものではありません。それでは人は内面的には変わらないからです。むしろ反感の方が強くなるでしょう。

パウロは牧会者として、全体への手紙には真理を明確にしつつも、個人的には相手の心に沿った対応をしたのでしようが、コリント教会にはそれでパウロを甘く見て、「弱々しく、その話しぶりは、なっていない。」などと言う人がいたようです。

パウロは歯がゆい思いをしたでしょうが、あくまでも彼の願うところは「肉（の力）に従って戦う」のではなく、「肉の物ではなく」すなわち神の物である霊の力によって戦うことです。

サタンはクリスチャンの心にも、神のみこころに反する思いを起こさせるために影響を与えようと、心の「要塞」を設けています。神様に従えない人の多くが、心の傷や間違った価値観や霊的な縛りが「要塞」となってしまう、それに影響されているのです。パウロはその「要塞をも破る」必要を感じていましたが、それは威圧よりも霊の戦いであると知っていたのです。

自分自身の成長のためにも、また他の人の成長のためにも、「うわべ」ではなく霊のレベルで見て考え祈り期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 火曜

Ⅱ コリント



10:12 私たちは、自己推薦をしているような人たちの中のどれかと自分を同列に置いたり、比較したりしようなどとは思いません。しかし、彼らが自分たちの間で自分を量ったり、比較したりしているのは、知恵のないことなのです。

10:13 私たちは、限度を越えて誇りはしません。私たちがあなたがたのところまで行くのも、神が私たちに量って割り当ててくださった限度内で行くのです。

10:14 私たちは、あなたがたのところまでは行かないのに無理に手を伸ばしているものではありません。事実、私たちは、キリストの福音を携えてあなたがたのところまで行ったのです。

10:15 私たちは、自分の限度を越えてほかの人の働きを誇ることはしません。ただ、あなたがたの信仰が成長し、あなたがたによって、私たちの領域内で私たちの働きが広げられることを望んでいます。

10:16 それは、私たちがあなたがたの向こうの地域にまで福音を宣べ伝えるためであって、決して他の人の領域でなされた働きを誇るためではないのです。

10:17 誇る者は、主にあって誇りなさい。

10:18 自分で自分を推薦する人でなく、主に推薦される人こそ、受け入れられる人です。

コリント教会の問題の一つに、敵対者が近づいて来て信徒を奪うということがあります。次章にパウロがいうように「ある人が来て、私たちの宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが、前に受けたことのない異なった霊を受けたり、受け入れたことのない異なった福音をうけ

たり」ということがあったのです。彼らは教師として近づいて来て、自分が優れた賜物と実績を持っていると宣伝し、弱い信仰のクリスチャンを惹きつけて、パウロの指導のもとから離して自分のものとしたのです。

その際に彼らがしたことは「自己推薦」です。パウロは彼らに対抗するために、さらに説得力のある「自己推薦」もできましたが、それは彼らと「同列に」自分を置いていることになると考え、それをしませんでした。コリント教会のクリスチャンにして欲しいことは、敵対者とパウロとを比べるのではなく、神の「限度」「割り当て」を知ることであり、「私たちの領域内で」働きが広がり、さらには「向こうの地域にまで福音を宣べ伝える」ということです。

自分を「誇る」または「自己推薦」するところからは、何ら良い実は生まれません。「主に推薦される」とありますから、自分への評価や評判は主に全く委ねて主のなしてくださるわざを待ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:1 私の少しばかりの愚かさをこらえていただきしたいと思います。いや、あなたがたはこらえているのです。

11:2 というのも、私は神の熱心をもって、熱心にあなたがたのことを思っているからです。私はあなたがたを、清純な処女として、ひとりの人の花嫁に定め、キリストにささげることにしたからです。

11:3 しかし、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、万一にもあなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあってはと、私は心配しています。

11:4 というわけは、ある人が来て、私たちの宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが、前に受けたことのない異なった霊を受けたり、受け入れたことのない異なった福音を受けたりするときも、あなたがたはみごとにこらえているからです。

11:5 私は自分をあの大使徒たちに少しでも劣っているとは思いません。

11:6 たとい、話は巧みでないにしても、知識についてはそうではありません。私たちは、すべての点で、いろいろなばあいに、そのことをあなたがたに示して来ました。

11:7 それとも、あなたがたを高めるために、自分を低くして報酬を受けずに神の福音をあなたがたに宣べ伝えたことが、私の罪だったのでしょか。

11:8 私は他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための給料を得たのです。

11:9 あなたがたのところにおいて困窮していたときも、私はだれにも負担をかけませんでした。マケドニヤから来た兄弟たちが、私の欠

乏を十分に補ってくれたのです。私は、万事につけあなたがたの重荷にならないようにしましたし、今後もそうするつもりです。

11:10 私にあるキリストの真実にかけて言います。アカヤ地方で私のこの誇りが封じられることは決してありません。

11:11 なぜでしょう。私があなただがたを愛していないからでしょうか。神はご存じです。

11:12 しかし、私は、今していることを今後も、し続けるつもりです。それは、私たちと同じように誇るところがあるとみなされる機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切ってしまうためです。

11:13 こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。

11:14 しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。

11:15 ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなります。

パウロは自分を批判する人々のことの信仰が、間違った教えに振り回されそうなのを知って、不安に陥っていることが分ります。彼を批判する人々は、彼が自分で働いているので、他の使徒たちよりも劣っているのだと勘違いしているのです。

働きながら福音を伝えるように召されている人は、パウロのように尊い立場です。また使徒たちのように献金で生活する人々も尊い働き人です。主から与えられた立場を全うしている人を尊重しましょう。

また自分の主張を通すために、的外れな価値観で批判するようなことのないように気をつけつつ、そのような言動を知ったなら、その人の信仰のために愛を持って正すようにしましょう。

もしも自分がパウロのように批判されたなら、パウロのように愛と自制を持って、主のみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:16 くり返して言いますが、だれも、私を愚かと思っはなりません。しかし、もしそう思うなら、私を愚か者扱いにしないで。私も少し誇ってみせます。

11:17 これから話すことは、主によって話すのではなく、愚か者とする思い切った自慢話です。

11:18 多くの人が肉によって誇っているの、私も誇ることにします。

11:19 あなたがたは賢いの、よく喜んで愚か者たちをこらえています。

11:20 事実、あなたがたは、だれかに奴隷にされても、食い尽くされても、だまされても、いばられても、顔をたたかれても、こらえているではありませんか。

11:21 言うのも恥ずかしいことですが、言わなければなりません。私たちは弱かったのです。しかし、人があえて誇ろうとすることなら、・・・私は愚かになって言いますが、・・・私もあえて誇りましょう。

11:22 彼らはヘブル人ですか。私もそうです。彼らはイスラエル人ですか。私もそうです。彼らはアブラハムの子孫ですか。私もそうです。

11:23 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。

11:24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、

11:25 むちで打たれたことが三度、石で打た



れたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。

11:26 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、

11:27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。

11:28 このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。

11:29 だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょうか。

11:30 もしどうしても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇ります。

11:31 主イエス・キリストの父なる神、永遠にほめたたえられる方は、私が偽りを言っていないのをご存じです。

11:32 ダマスコではアレタ王の代官が、私を捕えようとしてダマスコの町を監視しました。

11:33 そのとき私は、城壁の窓からかごでつり降ろされ、彼の手をのがれました。

パウロのように自分の経験を語る必要が生じるときがあります。そのときには誇りにならないように十分に気をつけましょう。そして語る必要があると判断したら大胆に語りましょう。またあくまでも主の栄光のために、主の目的のために語りましょう。

パウロも「弱かった」と言っています。もともと弱かった自分を主が強めたくださったゆえに、自分でも主のみこころを行えたのだと、主の力を

強調しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:1 無益なことですが、誇るのもやむをえないことです。私は主の幻と啓示のことを話しましょう。

12:2 私はキリストにあるひとりの人を知っています。この人は十四年前に・・肉体のままであったか、私は知りません。肉体を離れてであったか、それも知りません。神はご存じです。・・第三の天にまで引き上げられました。

12:3 私はこの人が、・・それが肉体のままであったか、肉体を離れてであったかは知りません。神はご存じです。・・

12:4 パラダイスに引き上げられて、人間には語ることを許されていない、口に出すことのできないことばを聞いたことを知っています。

12:5 このような人について私は誇るのです。しかし、私自身については、自分の弱さ以外には誇りません。

12:6 たとい私が誇りたいと思ったとしても、愚か者にはなりません。真実のことを話すのだからです。しかし、誇ることは控えましょう。私について見ること、私から聞くこと以上に、人が私を過大に評価するといけなからです。

12:7 また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンを使いです。

12:8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。

12:9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あな

たに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

12:10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

パウロが自分を誇るようなことを述べなければならなかったのは、自分を尊重しない人々に対して弁明するためでした。もともとパウロは自分の評判などを気にかける人ではありませんでしたが、教会では彼を指導者として尊重しないので、彼を通して語られる神の真理までもが尊重されなくなっていたからです。

しかもパウロが尊重されないのは、彼に問題があったのではなく、教会内の自己流な信仰を押し通そうとする者が彼を批判していたのです。

教会では神の御心を語る人は、牧師であってもリーダーや役員、また伝道する人であっても、尊重されなければなりません。それはその人を通して分かち合われる御心（みことばや真理）が尊重されるためです。つまりクリスチャンはみな証しの立つ生活・人格であることが大切なのです。

しかし誤解や無理解がある場合は、パウロのように大胆に、自分のためにではなく主のために、自らを証明する必要もあります。パウロはそのときも「弱さを誇りましょう」と、決して自分が誇りにならないように、謙遜さを失わないように配慮しながら、自分の霊的な恵を証しています。

主のためには大胆に、しかし自分はいくまでも謙遜に生きましょう。

そして、「弱さのうちに完全に現われる」神の力を実際に体験しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





12:11 私は愚か者になりました。あなたがたが無理に私をそうしたのです。私は当然あなたがたの推薦を受けてよかったです。たとい私は取るに足りない者であっても、私はあの大使徒たちにどのような点でも劣るところはありませんでした。

12:12 使徒としてのしるしは、忍耐を尽くしてあなたがたの間でなされた、あの奇蹟と不思議と力あるわざです。

12:13 あなたがたが他の諸教会より劣っている点は何でしょうか。それは、私のほうであなたがたには負担をかけなかったことだけです。この不正については、どうか、赦してください。

12:14 今、私はあなたがたのところに行こうとして、三度目の用意ができています。しかし、あなたがたに負担はかけません。私が求めているのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身だからです。子は親のためにたくわえる必要はなく、親が子のためにたくわえるべきです。

12:15 ですから、私はあなたがたのたましいのためには、大いに喜んで財を費やし、また私自身をさえ使い尽くしましょう。私があなたがたを愛すれば愛するほど、私はいよいよ愛されなくなるのでしょうか。

12:16 あなたがたに重荷は負わせなかったにしても、私は、悪賢くて、あなたがたからだまし取ったのだと言われます。

12:17 あなたがたのところに行わした人たちのうちのどれによって、私があなたがたを欺くようなことがあったでしょうか。

12:18 私はテトスにそちらに行くように勧め、

また、あの兄弟を同行させました。テトスはあなたがたを欺くようなことをしたでしょうか。私たちは同じ心で、同じ歩調で歩いたではありませんか。

12:19 あなたがたは、前から、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと思っていたことでしょう。しかし、私たちは神の御前で、キリストにあって語っているのです。愛する人たち。すべては、あなたがたを築き上げるためなのです。

12:20 私の恐れていることがあります。私が行ってみると、あなたがたは私の期待しているような者でなく、私もあなたがたの期待しているような者でないことになるのではないのでしょうか。また、争い、ねたみ、憤り、党派心、そしり、陰口、高ぶり、騒動があるのではないのでしょうか。

12:21 私がもう一度行くとき、またも私の神が、あなたがたの面前で、私をはずかしめることはないのでしょうか。そして私は、前から罪を犯して、その行なった汚れと不品行と好色を悔い改めない多くの人たちのために、嘆くようなことにはならないでしょうか。

神がないかのような価値観の中にいるコリント教会の人々に対して、パウロが苦悩している様子がわかります。

彼らは人間的な尺度でパウロの偉大さを求めているようです。それで「あなたがたが無理に私をそうしたのです。」と言うように、パウロは自分の霊的経験を誇りでもあるかのように述べて、「愚か者」にならなければいけなかったのです。また彼らは、信徒に負担をかけないのが良い牧会者であると考えていました。それでパウロは「負担をかけなかった」のです。それでも与える

ことの幸いと祝福を知っているパウロは、彼らが霊的に育っていないことを「赦してください。」と、自分の責任としているのです。

また彼らはパウロに「愛され」ることによって、感謝して報いようとするのではなく、それを当たり前と思ってさらにパウロに求めて、不満・批判をするという状態でした。

そこでパウロは「嘆くことにはならないでしょうか。」とコリント教会の人々に自省を促します。私たちも同じ点で自省が必要です。まずは、私のために命を与えて愛してください。愛された当たり前に対して、「負担をかけてほしくない」「愛されて当たり前」と思っていないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





13:1 私があなたがたのところへ行くのは、これで三度目です。すべての事実は、ふたりか三人の証人の口によって確認されるのです。

13:2 私は二度目の滞在のときに前もって言うておいたのですが、こうして離れている今も、前から罪を犯している人たちとほかのすべての人たちに、あらかじめ言うておきます。今度そちらに行ったときには、容赦はしません。

13:3 こう言うのは、あなたがたはキリストが私によって語っておられるという証拠を求めているからです。キリストはあなたがたに対して弱くはなく、あなたがたの間であって強い方です。

13:4 確かに、弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力のゆえに生きておられます。私たちもキリストにあって弱い者ですが、あなたがたに対する神の力のゆえに、キリストとともに生きているのです。

13:5 あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのですか。・・あなたがたがそれに不適合であれば別です。・・

13:6 しかし、私たちは不適合でないことを、あなたがたが悟るように私は望んでいます。

13:7 私たちは、あなたがたがどんな悪をも行なわないように神に祈っています。それによって、私たち自身の適格であることが明らかになるというのではなく、たとい私たちは不適格のように見えても、あなたがたに正しい行ないをしてもらいたいためです。

13:8 私たちは、真理に逆らっては何をするこ

ともできず、真理のためなら、何でもできるのです。

13:9 私たちは、自分は弱くてもあなたがたが強ければ、喜ぶのです。私たちはあなたがたが完全な者になることを祈っています。

13:10 そういうわけで、離れていてこれらのことを書いているのは、私が行ったとき、主が私に授けてくださった権威を用いて、きびしい処置をとることのないようにするためです。この権威が与えられたのは築き上げるためであって、倒すためではないのです。

13:11 終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。

13:12 聖なる口づけをもって、互いにあいさつをかわしなさい。すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくとっています。

13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

教会を「築き上げる」ために使命と責任が与えられている人には「権威」も与えられています。牧師だけでなくグループのリーダーやミニストリーのまとめ役、教会の長老や役員もそうです。それぞれの権威の範囲は違いますが、神様から与えられていることでは同じです。

ましてやパウロは使徒でありコリント教会の牧会者という責任と権威が与えられているわけですから、必要があれば「容赦はしません。」というような毅然とした態度も取らなければなりません。その権威はイエス・キリストから与えられたのでうから、「キリストが…語っておられる」ので

あって、キリストによって立てられた人を尊重して従うことはキリストに従うのです。

もちろん人間には不完全さがあります。しかし「真理に逆らっては何をするともできず、真理のためなら、何でもできるの」ですから、互いに神様の真理を追い求める（つまりみことばを学び、現実に対応する）ことによって、神様のみこころを共有することによって、神の働きは「築き上げ」られることになります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

